
○国際交流員のコラム○

●慣れという恐ろしいもの●

鹿児島県国際交流員 金 孝真（韓国出身）

日本には「住めば都」ということわざがありますね。これをはじめて聞いた時、「そうだね。どんな所でも、住み慣れるとそこが居心地よく感じられるはず！」と感心しました。

一方、韓国では「慣れにだまされ、大切さを失わないようにしよう」という言葉がよく使われます。これは「星の王子さま」の名言です。

このように、人間の適応力は凄いと思いつつも、変化に慣れれば慣れるほど、その慣れというものの恐ろしさが分かりますね。

最近、私もこれを実感しています。

約2年前、鹿児島に来たばかりの頃は、新しい生活への不慣れさもありましたが、それだけにワクワク感もある日々を過ごしました。韓国では珍しいヤシの木が街路樹としてあちこちに植えられていることや、桜島の日常的な噴火、そして、はじめての黒豚しゃぶしゃぶや芋焼酎など、この全てが新しく新鮮でした。そして、いつの間にかこれらを身近に感じて、当たり前喜びと感じるようになりました。

そのありがたさを忘れがちになった頃、同期の石川県国際交流員が鹿児島に遊びに来ました。

1日目は、指宿に行って、砂蒸し温泉を体験したり、たまた箱温泉の和風露天風呂から大海原と開聞岳を望んだりしました。そして2日目は、同期の国際交流員が以前から「一度は行ってみたい！」といった、鹿児島のシンボル・桜島に行きました。私たちは、展望スポットで桜島をより間近で感じたり、自転車で海沿いの景色を満喫したりしました。続いて3日目は、共通の知り合いの県民の方と霧島に行って、築100年以上のレトロな木造駅舎の嘉例川駅や、建国神話の主人公であるニギノミコトを祀った霧島神宮を訪れました。

この旅行で、忘れかけていた大切なことに気づかされました。私は、同期の国際交流員に鹿児島を案内して、私がここをどれだけ誇りに思っていたのか、ようやく分かりました。

今も活動を続ける世界でも珍しい活火山の桜島をはじめ、温泉の源泉数全国2位を誇る屈指の温泉王国、歴史の趣のある建物、皆に味わってもらいたい鹿児島ならではのグルメ等々、この日常のありがたさを忘れかけていたのです。

皆様は、当たり前のことに感謝できていますか。もしかして、慣れにだまされ、大切さを失ってはいませんか。誰かの日常が、誰かの憧れとなります。

私も、この大切さを失わないように、今に感謝して楽しく過ごしていきます！

